

細胞検査士養成に向けた兵庫県臨床検査技師会の取り組み

細胞検査士の育成と問題点

◎山下 展弘¹⁾、小林 真²⁾、松木 慎一郎³⁾、長岡 克也⁴⁾、太田 寛子⁵⁾、佐藤 元⁶⁾
松林 謙治⁷⁾、今川 奈央子⁸⁾

神戸市立医療センター西市民病院¹⁾、兵庫県臨床検査研究所²⁾、兵庫県立尼崎総合医療センター³⁾、公立豊岡病院⁴⁾、宝塚市立病院⁵⁾、兵庫医科大学病院⁶⁾、医療法人 明和病院⁷⁾、神戸大学医学部附属病院⁸⁾

細胞検査士資格を取得するには、①臨床検査技師ないし衛生検査技師として主として細胞診検査の実務に1年以上従事した者、②細胞検査士養成所あるいは養成コースのある大学の卒業、卒業見込み者が認定試験に合格する必要がある。現在は②の養成コースのある大学を卒業と同時に臨床検査技師と細胞検査士とのダブルライセンスを有している技師が増えてきているが、今までどおり就職後に病理検査室に配属されてから細胞検査士を目指す技師も多い。兵臨技病理細胞検査研究班では①の技師を主な対象として16年前より細胞検査士認定試験の二次試験対策までを含めた指導を行う細胞診ジュニアコースを開催してきたので紹介する。

細胞診ジュニアコースでは、4月から月に1～2回の開催で総論・基礎、婦人科、呼吸器、泌尿器・体腔液、非上皮性腫瘍、乳腺・甲状腺などの幅広い領域について基礎的な講義を行い、9・10月に試験対策向けの一次模試（筆記模試、スライドフォト模試）、さらに1次試験終了後に実際の症例標本を用いた二次模試を行っている。

二次模試の内容は細胞検査士試験当日さながらのスクリーニング、同定、実技を行っている。現在、スクリーニングは30問、同定は70問で典型的な症例や教育的症例を中心に班員が出題している。実技は昨年細胞検査士認定試験に合格した細胞検査士が注意点を解説し、実技指導を行っている。喀痰標本の作製では、我々が独自に開発した模擬喀痰（とろみをつける食品材料や卵白、卵黄、色粉を混ぜ作製した喀痰のこと）を使用している。また、ベテラン技師によるティーチング顕微鏡を用いたスクリーニング指導も行い、好評を得ている。平成14年度より毎年開催し、兵庫県だけでなく、近畿一円、中国地方、四国などからの参加者も増えており、高い評価を得ている。中には北海道や信越地方からの参加もあり、参加者は16年間で延べ1,000人余りにもなっている。

これらの活動を継続できているのは、現在までの病理細胞検査研究班の班長、班員がコミュニケーションよく、後進の育成を行ってきた証と考えている。

当日は、細胞診ジュニアコースの問題点や有志にて行っているカンファレンスについても報告する。

連絡先

神戸市立医療センター西市民病院

山下 展弘

078-576-5251